

# 令和8年度 南阿蘇村 施政方針

南阿蘇村村長 太田吉浩

今年度は熊本地震から10年を迎え、復興の総仕上げを迎えた重要な時期です。村民一丸となり、数々の困難を乗り越えてきた10年を経て、さらに強い村づくりが求められています。人口減少や少子高齢化などの課題を前に、私たちは若い世代に「明るい未来がある」と胸を張れる土台を作らなければなりません。本年度の施策として、次の「3つの揺るぎない柱」を掲げ、村独自の強みを最大限に活かしていきます。

## 第1の柱

『村を強く、明るく、前へ』  
〜稼ぐ力の爆発と農村の進化〜

村の自立した「稼ぐ力」を強化することが、発展の原動力です。本年度は「ふるさと納税2年連続15億円」という高い目標を設定し、返礼品の開発や地域商社の進化を進め、村内経済を循環させます。また、農業の進化を目指し、「明るく稼げる農村」を作ります。米やそば、ハーブの生産を強化し、新たな特産品を生み出すために耕作放棄地対策やジビエ活用にも取り組みます。さらに、村内経済を活性化させるため、企業誘致や新しい働き方を提案します。スキマバイトアプリ「タイミー」を活用

して、柔軟な働き方を提供し、関係人口を創出します。若い人や意欲的な村民の挑戦を支援する制度も新設し、地域の絆を深めながら発展を目指します。



## 第2の柱

『頑張る地域と村民を下支えできる行政』  
〜安心の再構築〜

村民の安心を支えるため、日常生活の下支えを強化します。まず、「買い物難民ゼロ」を目指し、高齢者や交通弱者のために移動販売の強化を行います。また、公共交通の最適化を進め、誰もが自由に移動できるネットワークを構築します。人口減少に歯止めをかけるため、空き家バンク制度を見直し、移住希望者と物件をスムーズにマッチングできるシステムを構築します。さらに、子育て世代への新築・改築補助を充実させ、若い人が村で家庭を築けるよう後押しします。保育所改革も急務です。子供たちを

守り育てるため、「保育園在り方検討委員会」を立ち上げ、早期に改善策を打ち出します。発達や生活に困り感のある子供達への支援も強化し、全ての子供が取り残されないようにします。

## 第3の柱

『健康と読書で地域づくり』  
〜心と体の豊かさ〜

村の基盤は村民一人一人の「心と体の健康」です。「健康が一番プロジェクト」を推進し、検診体制の強化や予防医療意識の普及を図ります。特に歯科検診や人間ドックの支援を充実させ、健康アプリの普及を進めます。また、異常気象から村民を守るため、公民館や体育館にエアコンを設置し、命を守るための対策を強化します。

心の健康と豊かな教養を育むため、LOOPみなみあそを中心に「読書や絵本、読み聞かせの村」を実現します。移動図書館や図書共有システムを活性化させ、世代を超えた交流を促進します。

施策を実行するためには、行政そのものを変える必要があります。職員意識改革を進め、斬新なアイデアを引き出すために「庁内政策コンペ」を実

施します。従来の慣例にとらわれず、意欲的な職員が活躍できる組織へと変革します。また、財政健全化は継続し、無駄を削減し、時代に合わなくなった事業を見直します。インフラ整備は、維持管理を優先し、将来の重荷を減らします。防災や広域道路など、大型事業は積極的に国や県に予算要望を行い、地域の未来を支える基盤を築きます。

私たちの最大の財産は、厳しい時代を共に乗り越えた村民の絆と底力です。『村を強く、明るく、前へ』。この目標を現実のものとするため、全身全霊で取り組んでいきます。

